神女広報
CROSSROADS

vol.17
2014 Winter

神戸女子大学
神戸女子大学大学院
神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター

「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ学園広報誌

特集
「食と健康」の専門家を目指して

6 教育研究活動
12 学園トピックス
14 大学連携
15 地域連携
18 インフォメーション

学校法人行吉学園

須磨離宮公園「ピース」

「食と健康」の専門家を目指して 管理栄養士養成課程と食物栄養学専攻紹介

管理栄養士は健康課題に対応できる食と栄養・健康に関する専門家であり、最近では特に生活習慣病の発症予防や治療において重要な役割を担っています。生活習慣病の罹患者が増加している近年、その役割はますます重要になり、臨床の現場ではチーム医療の一員として、また、学校・行政・企業や地域社会でも人々の健康を支える栄養と食の専門家として大きな期待が寄せられています。

神戸女子大学家政学部 管理栄養士養成課程は、臨床の現場での業務に対応できる管理栄養士や地域の人々への食生活指導、特定給食施設への給食経営管理指導などの多種多様な専門領域において、それぞれの役割を果たすことができる応用力のある管理栄養士の養成を目指しています。

また、大学院家政学研究科 食物栄養学専攻では、「食」を「健康」の観点から捉え様ざまな分野の教員がたゆまぬ研究活動の中で「食」と「健康」のエキスパートを育成しています。

今回は、神戸女子大学における管理栄養士養成課程、食物栄養学専攻の教育と研究についてお知らせするとともに、学生が産学連携、地域貢献などで活躍している姿を紹介します。

置村康彦教授(専門:内分泌代謝学)

神戸女子大学が理想とする管理栄養士の育成を目指して

管理栄養士養成課程 主任 置村 康彦教授

健康でいきいきと暮らすことは、誰もが望むところです。そのために、食生活は大きな位置を占めます。特に最近、増加してきた生活習慣病の予防や治療には食生活の改善が重要であり、管理栄養士が活躍する場は非常に大きいものと考えます。実際、卒業生は、病院における栄養管理、患者さんへの栄養指導、企業や施設における給食管理、食品会社での製品開発、教育機関における栄養教育、研究など様ざまな場で活躍しています。

しかし、これらの場で長く仕事をするには大学で学んだ知識だけでは不十分です。重要であることは、大学で学んだことを基盤に、どのような場でも、いつの時代でも「食のプロ」として通用するように、たえず自分自身に磨きをかけ続けることです。神戸女子大学は自立心・対話力・創造性を培う教育を目指しておりますが、まさしくこれらの能力、それぞれの場で、自分は何をすべきか自分で考える、しかし独善的にならず他の人の意見を良く聞き相談する、そして本質をついた新しい取り組みを行う力が管理栄養士には求められています。また、このようないつも自分を磨き続けられるような卒業生を輩出することが、本学の価値を高めることにつながると私は考えております。

研究指導中の置村教授
主な担当科目:解剖生理学、臨床栄養学

瀬口正晴教授(専門:食品科学)

食物栄養学専攻の目指す教育と研究 神戸女子大学大学院で学ぶこと

食物栄養学専攻 主任 瀬口 正晴教授

食物栄養学専攻では、「食」と「健康」の基礎および応用分野の教員がそれぞれの研究分野をもちより互いに刺激しあって研究活動を行っています。大学院生たちは、まさにその場に身を置いて研究に参画し、「食」と「健康」のエキスパートになっていきます。

私の食品加工学研究室に所属する大学院生は、小麦粉を用いた膨化食品について小麦粉の化学的、生化学的、栄養学的なことなど多くの面からの研究を行っています。新食品素材が製パンにどのような影響を与えるかを研究する過程では、他の研究室と共同で研究を進める場合も出てきます。さらに新たな問題を発見し博士後期課程へと進み、研究を深め続ける大学院生もいます。

大学院で行った研究成果を広く世の中に知ってもらうためには、英語で論文を書き、国内外の専門雑誌へ投稿する必要があります。さらに博士の学位を取得するためには、厳しい論文審査も受けなければなりません。こうした経験は、修士・博士号をもつ管理栄養士として社会に羽ばたき、活躍するためには大切なステップなのです。

実験を見守る瀬口教授
担当科目:食品加工学、食品加工学実習

特徴的なカリキュラム

厚生労働省の定める管理栄養士養成施設として法令に適合したカリキュラムで教育を行うとともに、独自の科目を設けて導入教育や職業教育に配慮しています。

専門科目を正しく理解するために不可欠となる基礎知識を習得するために、高等学校未履修者対象の「特別化学」「特別生物」、全員必修の「管理栄養士のための化学」「管理栄養士のための生物」が開講されています。

また、管理栄養士の職業に対する理解を深め、就職につながる意識を高めるために開講されている「管理栄養士論」では、管理栄養士の仕事について具体的に学び、各方面で活躍している卒業生や専門家を招き講義も行っています。

高い国家試験合格率を維持

神戸女子大学では、管理栄養士国家試験を卒業生全員に受験させる努力をしています。

その結果、受験率は100%に近い数字になって表れており、また毎年、管理栄養士国家試験の高い合格率を維持しています。

5年間の管理栄養士国家試験受験状況

年度	卒業生数	受験者数	受験率	合格者数	合格率
21	137	137	100%	126	92.0%
22	148	147	99%	125	85.0%
23	159	156	98%	136	87.2%
24	154	154	100%	150	97.4%
25	139	138	99%	129	93.5%

管理栄養士キャリアUPネットワーク

平成21年度に文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」の学生支援プログラムに採択された「管理栄養士キャリア支援ネットワーク構築」事業は、今日まで、キャリア・イメージング講座、講演会、研修会を実施しています。在学生は勿論、卒業生の勉学(管理栄養士国家試験受験・最新の知識や情報)や職業に関するアドバイスを提供しています。ホームページとコミュニティサイト(SNS)を運営し、就職情報の送信、管理栄養士国家試験やフードスペシャリスト試験のためのeラーニングを行っています。これにより、教員・学生・卒業生が相互に情報を交換・共有し、勉学の支援や現場での実践力の向上を目指しています。

ネットワークパソコンルーム(上)と
ネットワークパソコンコーナー(ロビー)で学習中の学生たち

海外での病院実習

平成14年度から毎年2名の学生を派遣しハワイ・ホノルル市のクアキニ病院で病院実習を行っています。グローバル化の進む現在において管理栄養士の仕事は英語力がますます必要とされています。

今年度も2名の学生が参加しました。ひとりの学生は、様ざまな国の人とのコミュニケーションをとることに興味があり、病院実習を英語でできるハワイでの実習を希望しました。もうひとりは、スペイン語が堪能で、英語も得意な学生です。語学にさらに磨きをかけ国際的な仕事がしたいと考えています。

二人はクアキニ病院での栄養管理の方針やNST(Nutrition Support Team=栄養サポートチーム)での管理栄養士の役割に、共感することが多く自分たちの進む道への指標にもなりました。

クアキニ病院で実習中の学生

製パンの技術を習得

「パン加工室」には、実際のパン屋さんと同じ本格的な製パン設備があり、パンの研究の場として大いに活用されています。

学生は「基礎調理学実習」「応用調理学実習」「食品加工学実習」などの授業の一環として行われる製パン実習で、必要な基本技術と知識を学び、製造技術を身につけています。

実習の様子

作ったサンライズと
かぼちゃブレッド

管理栄養士養成課程ならではの産学連携、地域貢献

企業と共同開発のお弁当が発売される

お弁当の販売について
「がつんと贅沢25品目牛丼弁当」632kcal ：平成25年8月2日(金)販売開始
「揚げないチキン南蛮弁当」496kcal ：平成25年10月14日(月)販売開始
(コープこうべ161店舗で販売)

後藤昌弘教授とゼミ生

後藤 昌弘教授の4年生のゼミ生11名は、「自分の大切な人に食べてもらいたい健康に気遣ったお弁当」をテーマに、生活協同組合コープこうべの関連会社である株式会社コープフーズ及び大塚食品株式会社とともに共同で商品開発に取り組みました。

共同開発した二つのお弁当は大塚食品株式会社の「マンナンヒカリ」を用いたことで、満腹感がありながら低カロリーのうえ、多彩な食材を用いて栄養のバランスが取れるようにしました。どちらのお弁当も食べておいしく、彩りも良く目でも楽しめるお弁当として好評でした。

考案した学生は材料の原価計算や工場で作る工程を考えたレシピ作りなど、学内での実習ではできない様ざまな経験ができました。

「揚げないチキン南蛮弁当」

「がつんと贅沢25品目牛丼弁当」

管理栄養士養成課程の学生で構成されたクラブ「V−net＋」が内閣府「食育推進ボランティア表彰」を受ける

野菜を食べようキャンペーン中のV-net+のメンバー

表彰状
神戸女子大学
V-net+ 殿
貴団体は食育を推進する
ボランティア活動に尽力され
その功績は誠に顕著であります
よってここに表彰します
平成二十五年六月二十二日
内閣府特命担当大臣
森まさこ

平成25年6月22日(土)に広島市で開催された内閣府主催の第8回食育推進全国大会開会式において、神戸女子大学のクラブ「V-net+(ブイネットプラス)」(顧問：狩野 百合子教授)が「食育推進ボランティア表彰」を受けました。

この表彰は若い世代を対象とした望ましい食習慣の普及啓発などの食育の推進を図ることを目的に、平成21年度から実施されており、平成25年度で5回目です。

食育の推進に関わるボランティア団体などが表彰の対象となります。「V-net+」は、管理栄養士養成課程の学生で構成されたボランティア活動を行うクラブです。

管理栄養士養成課程の学生ならではの「栄養学の知識」に基づき、「生活習慣病予防のための食生活に対するアドバイス」や「子どもたちに対する食育活動」などを地域の人々に行っています。学内では学生食堂で健康を考えた「ヘルシーメニュー」を提案して、実際に採用されるなど数々のボランティア活動を行ってきたことが評価されました。

「V-net+」の活動内容は、内閣府ホームページ(トップページで"平成25年度食育推進ボランティア表彰事例集"で検索)と内閣府出版物に掲載され広く紹介されています。

地域の「子育て支援」「食育活動」に貢献

橋本 加代准教授の研究室では、子どもから高齢者までのライフステージに応じた「食育」をテーマに研究を続けています。平成24年度に引き続き平成25年度は2名の学生が、子育て支援センター「にしあかし」(NPO法人みっくす)(注)で、保護者の方と子どもたちを対象に毎月「朝食」「子どものおやつ」「食事バランスガイド」「献立」「野菜について」などのテーマで自ら計画した食育活動を行いました。毎回アンケートをとり参加者の理解度を調査し、活動方法や配布資料の検討を繰返し、より効果的な食育活動の方法を研究しました。橋本研究室の食育活動は、大学で学んだ専門的な知識を子育て中の地域の人々や子どもたちに広げることによって食を通した地域連携の一環となっています。

(注)兵庫県明石市にあるNPO法人で、「子育て」中の保護者、こどもの「子育ち」のサポートをして、安心して子育てができる地域を目指して活動している。

子育て中のお母さんにビタミンについて説明する学生と子育て支援センター「にしあかし」神尾由美理事長(右)

参加者に配った手作りのかぼちゃのパウンドケーキ(左)とアンケートとビタミンについての資料(右)

研究成果をあげる大学院修了生

食物栄養学専攻博士前期課程の修了生「やずや食と健康研究所」研究奨励賞を受賞

北村沙織氏

平成25年3月に神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻 博士前期課程を修了された北村沙織氏が、「やずや食と健康研究所」から「2011年度助成研究奨励賞」を受賞しました。北村氏は、博士前期課程の1年次生の時に、「昆布、酢昆布、とろろ昆布の血圧への影響」という研究テーマで同研究所の研究助成に応募し採択されました。1年間の研究期間を経て優秀な研究成果を挙げたことにより平成25年5月に同研究所から表彰されました。

「やずや食と健康研究所」では、平成19年から様ざまな食品・食物・食生活習慣と健康とのかかわりに焦点をあて、食と健康の関係を明らかにする研究を対象に助成が行われています。

昆布と酢にはそれぞれわずかに血圧を下げる効果があることが知られていますが、北村氏は高血圧においては、それぞれを単体で摂取した場合よりも、日本の伝統食品に広く見られる組み合わせである昆布と酢の同時摂取をした場合の方が、血圧の上昇をより強く抑制する可能性があるのではないかとの仮説を立て、ラットを用いた実験でこれを証明し成果を挙げました。なお、この研究成果は2013年の全米心臓協会高血圧学会において発表されました。

研究内容が充実し、「日本の伝統食品が高血圧の予防や治療に及ぼす影響というテーマは、日本人の健康に寄与し同研究所の基本方針にも合致する」との評価がこの受賞につながりました。

研究指導の栗原伸公教授と北村氏

実験室の北村氏

社会人にも開かれた大学院・・・社会人学生として学んだ修了生紹介

神戸女子大学大学院家政学研究科では、平成21年度より3年以上の職歴のある社会人を対象とした入学者選抜を実施しています。現在までに、博士前期課程、博士後期課程合わせて15名の社会人がこの入試制度によって大学院生となりました。大学院での研究を生かして現場で活躍中の修了生を紹介します。

公益財団法人先端医療振興財団－先端医療センター病院栄養管理科勤務－管理栄養士－ 三浦 由美子氏

三浦由美子氏

食物栄養学専攻博士前期課程を平成23年3月に修了された三浦 由美子氏は、公益財団法人先端医療振興財団 先端医療センター病院栄養管理科で管理栄養士として活躍中です。

三浦氏は、同センターにおいて入院患者さんの食事の摂取状況を観察する中で、治療を受ける患者さんの嗜好や喫食量について様ざまな疑問をもつようになりました。これらの疑問を根拠に基づき解決し、経験から得た知識を整理する必要性を感じていたところ、神戸女子大学大学院の家政学研究科は、仕事を続けながら学ぶことができるという情報を得て進学することを決意しました。

食物栄養学専攻博士前期課程に入学後、三浦氏はがん化学療法により味覚異常や食欲不振、口腔粘膜障害などの有害事象を発症し、十分に食事を摂ることが難しくなっている患者さんを対象に「がん化学療法を受ける患者さんの嗜好の変化」というテーマで研究を始めました。多くのデータをどのように扱うかを基礎から学び、専門の先生方の意見を取り入れて論文を完成させました。

三浦氏は仕事と研究の両立で多忙な二年間を過ごしましたが、大学院での研究成果を献立作成や栄養指導における根拠として、治療を受ける患者さんのために役立てています。三浦氏は今後も現場で得られるデータを患者さんのために生かせるように新たなテーマを模索しています。

古典芸能研究センターからのお知らせ

研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」発足

神戸女子大学古典芸能研究センターの研究プロジェクト「日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成」が、文部科学省平成25年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択されました。古典芸能研究センターを研究拠点として、研究代表者 大谷 節子教授（古典芸能研究センター兼任研究員・文学部教授）のもと、センターの兼任研究員・客員研究員・非常勤研究員を中心に、中世芸能・近世芸能・民俗芸能について5ヶ年の研究を計画し実施します。

本学が位置する兵庫（摂津・播磨）は民俗芸能の宝庫であり、様ざまな芸能の源を考える上で重要な地です。こうした立地条件に加え、本学は日本有数の古典芸能関係の貴重な資料群を所蔵しています。この研究プロジェクトでは、本学がもつこれらの資産をいかした研究拠点づくりを目指しています。今後は、所蔵資料の公開のほか、研究会や講演会・シンポジウムの開催、刊行物の発行などに積極的に取り組みます。詳しい情報は、古典芸能研究センターホームページ（http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/geinou/）で随時公開します。

なお、古典芸能研究センターは、この事業の一環で施設を改修することとなりました。平成26年4月にリニューアルオープンの予定です。

＊平成26年1月より3月末まで閉室します。

古典芸能研究センターの看板完成

古典芸能研究センターは、開設以来十有余年、改まった標識を施設内に掲げる機会なく今日に至っていましたが、このたび、縁あって真新しい看板を調製しました。

木目鮮やかな欅の一枚板に刻まれた「神戸女子大学古典芸能研究センター」の文字は、本学名誉教授 信多純一先生がセンターの研究紀要の創刊に際してご揮毫くださった題字からいただいたものです。また、製作にあたっては、平成22年度に、センターがそれまでの功績を認められて学園の教職員表彰「行吉賞」を受賞した際の褒賞金を充当させ、永くその記念とすることにしました。

平成24年11月19日（月）には関係者が集い、この日初日を迎えた「神戸女子大学古典芸能研究センター稀書展示～伊藤正義文庫・志水文庫を中心に～」の展示室を会場として、展示のオープニングと併せ、この看板の除幕を行いました。現在ご療養中の信多先生は奥様と一緒にお越しくださり、初代センター長故伊藤 正義先生の奥様もご臨席いただく中、行吉 誠之理事長・波田 重熙学長（当時）・阪口 弘之センター長（当時）と共に、看板を覆う幕に繋がる紅白の綱を力強く引いて寿いでくださいました。写真は、新調した看板と除幕の様子です。関係者のご承諾を得て掲載させていただきました。

この看板は、来春、リニューアルしたセンターに掲げる予定です。

平成25年第3回常設展「語りの文化」

場所:古典芸能研究センター閲覧室内　期間:平成25年9月9日（月）～11月18日（月）

平成25年第3回常設展は、同時期に開講したオープンカレッジ特別講座「語りの文化と日本人」の関連企画として、芸能の語りに焦点をあてて、語りの場を描いた絵画や現代の上演写真などを使ったパネル展示を行いました。あわせて、説経節や浄瑠璃の正本、能の語り用の台本といったテキスト類も紹介しました。また、古代から現代にわたる語りの文化と日本人との関わりについて、それぞれの講師が独自の視点で解説する特別講座にあわせて、各回の講師の著書や推薦書を見学者が直接手にとれるコーナーも設けました。会期中は、講座前後の予習・復習のために訪れる熱心な受講生や、閲覧を兼ねた学生の見学などで賑わいました。

科学研究費助成事業に採択された研究紹介

「能・狂言面の創出と派生に関する学際的研究」基盤研究(B)

研究期間:平成23～26年度

神戸女子大学文学部 日本語日本文学科　**大谷 節子**教授

大学院講義風景

本研究は、国内外に所蔵される能・狂言面を網羅的に調査し、面の表裏に記される銘文、印鉋、所蔵印、極め書きなどの文字データを採取することによって、客観的年代情報をデータベース化し、年代基準面を手掛かりに、文献学、芸能史・美術史学・文化財保存修復科学などの複眼的視点から能・狂言面の創出と派生の過程を跡付け、能・狂言の作品、及びその享受史との関わりを明らかにすることを目指しています。

能・狂言面研究は、能・狂言研究の重要な一角であるにも関わらず、中世文学・中世史・芸能史・美術史など複数の分野に亘る研究テーマであることに加え、所蔵が個人や地方の寺社であるために調査に制約が伴うことが障害となり、体系的な研究が行われてこなかった分野です。

文献学を専門とする私は、この研究において芸能史、日本美術史、文化財保存修復科学、情報学、面作修復の専門家を交えての研究組織を組み、従来の目視調査に加え、赤外線カメラを用いて漆下の墨書を判読し、製作技法・修理痕跡ならびに木地、下地、顔料などの材質に関する科学的なデータを収集しています。顕微鏡観察、三次元形状計測、X線ラジオグラフィ、X線CT、赤外線リフレクトグラフィ、蛍光X線元素分析、X線回折分析、レーザーラマン分光分析、可視分光分析、赤外分光分析などの調査をも併用する、文理融合型の研究です。

なお、海外に流出した能・狂言面は、美術館や博物館において面の名称や時代、作者が不明なまま、あるいは誤認されたまま、死蔵されているケースも少なくありません。海外に所蔵されている能・狂言面の調査を通じて、国際交流が進められればと願っています。

大学院講義風景

科学研究費助成事業とは

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金)は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。ピア・レビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対する助成が行われています。

大学院情報（論文の概要）

平成24年度博士学位取得者 博士論文概要

平成25年3月18日（月）田原 彩氏に博士（食物栄養学）、石井 与子氏に博士（生活造形学）の学位が授与されました。

田原 彩（神戸女子大学大学院家政学研究科 食物栄養学専攻へ提出　　指導教員：瀬口 正晴教授）

＜課程博士＞ **論文題目：「Application of Cellulose Granule as Food Materials in Bread-Making, and Its New Health-Promoting Functions」（製パンへのセルロース粒の利用と新しい機能導入の可能性）**

セルロースは体内で消化吸収されず、低カロリー食品材料として、あるいは食物繊維源として食品に用いられることが期待されています。本研究では、セルロースの非消化性を利用した低カロリーパンの開発や、低カロリーパンとして摂取されたセルロースをさらに有効活用するため、セルロースへの機能性付与に関する研究を行ってきました。その結果、セルロースを粒子状にし、これを炭化することで好ましい製パン性を有する食物繊維の多い、カロリーの低いパンの製造ができること、同時に人の健康に影響を及ぼす食用タール色素の除去という健康保持に貢献する機能をもつパン製造のできる可能性が見出されました。この研究を通して得た、食品材料が本来もつ特性を生かしたままさらに他の機能を与えるという考え方は、今後の食品開発においても利用できるものと考えています。

＜論文博士＞ **石井 与子（神戸女子大学大学院家政学研究科 生活造形学専攻へ提出　　指導教員：平田 耕造教授）**
論文題目：「環境温・湿度変化から見た吸湿性の異なる肌着着用時の温熱生理反応と衣服気候に関する研究」

本研究は、吸湿性の異なる肌着着用が発汗開始前後の温熱生理反応と衣服気候に及ぼす影響を解明するため、被験者実験と文献による比較検討を行いました。その結果、吸湿性の2%高い肌着着用時の温熱生理反応と衣服気候は、発汗開始前の不感蒸散期には皮膚からの気化を促進する効果が低湿および高湿の両湿度条件で認められました。一方、発汗開始後の温熱生理反応と衣服気候を増大させる収着熱の効果は、低湿環境では認められましたが高湿環境では認められませんでした。また、温熱生理反応を増大させる収着熱の効果は発汗レベルが比較的少量である場合に限定されることも明らかになりました。したがって吸湿性の異なる肌着着用時の快適性には、環境湿度と発汗の有無および発汗レベルが温熱生理反応と衣服気候に影響を及ぼす重要な因子であることが判明しました。

研究室便り 考古学の専門知識や学芸員資格を生かして活躍

神戸女子大学大学院文学研究科 日本史学専攻 博士前期課程に在籍中の大学院生2名（井上 知花さんと三澤 朋未さん）が、平成25年10月1日付で資料館と教育委員会に採用され、大学院で培った知識と学芸員の資格を生かして活躍しています。

二人は高校生のときから古代遺跡に興味があり、神戸女子大学の文学部史学科に入学しました。学部生の時に、寺沢 知子教授の「日本考古学」の授業を受けて、物質資料を元に歴史を研究する考古学という学問に惹かれ、さらに深く勉強したいと思うようになり、大学院に進み同教授の下で研究を続けることを決心しました。

井上さんは、学部生の時に、授業で訪れた兵庫県立考古博物館で、来館者に歴史への興味を喚起させるように工夫した展示方法に感銘をうけ、学芸員になりたいと強く思いました。願いがかなって現在は尼崎市の資料館で考古資料の整理や展示会の企画、小学生対象の体験学習の指導などで活躍しています。

三澤さんも学部生の時に受講した「考古学実習」で発掘調査について勉強し、実際に遺跡を発掘してみたいと思いました。寺沢教授を通して発掘調査のアルバイトをさせてもらい、そこで出土品を手にすることもできました。歴史を検証しその発信ができる発掘調査を続けていくうち、この仕事にますます惹かれ、現在は教育委員会の文化財課の職員として、発掘調査や資料の整理に多忙な日々を送っています。

二人は大学院で、興味や疑問に思ったことを探求し、専門的な知識を深めたことが役立ち、念願の学芸員や遺跡発掘調査の仕事に就くことができました。今後も研究を続けて歴史を勉強する面白さを多くの人々に伝え、自らも新たな歴史の発見ができるように努力を続けていく覚悟をしています。

学園祭の博物館実習の展示室にて。
寺沢知子教授と三澤朋未さんと井上知花さん（左から）

日本語日本文学科 古典芸能コース「古典芸能講読」の特別講義で「筑紫舞」を鑑賞

神戸女子大学文学部 日本語日本文学科の古典芸能コース(注1)「古典芸能講読Ⅱ」(担当:河田 千代乃教授)の授業では、古典芸能の演者を招き実演を鑑賞する特別講義の時間が設けられています。

平成25年11月19日(火)に、須磨キャンパス体育文化ホールにおいて傀儡子族が伝えたとされる芸能「筑紫舞」(注2)を神戸神事芸能研究会の伝承者の皆様に披露していただき、「古典芸能講読Ⅱ」の受講生と希望した日本語日本文学科の学生75名が鑑賞しました。

演舞次第 (1)神事 (2)巫子舞「橘」「七夕」 (3)神舞「秋風の辞」 (4)傀儡子舞「オランダ万才」

橘

七夕

秋風の辞

オランダ万才

筑紫舞は、神前で舞われる芸能であることから、室内には神座が設けられ、最初に神主さんに御祓いをしていただき、出席者全員がすがすがしい気持ちで授業に臨みました。

河田教授は演舞ごとに解説を行い、出席者は清楚でありながら華やかな衣装を纏った二人の演者による息のあった巫女舞、きらびやかな狩衣で毅然とした動きや力強い足踏みが印象的な神舞、二人の演者の軽妙な身振りもあり、見た目も楽しい傀儡子舞を鑑賞しました。厳かで優美な舞でありながら、旋回、跳躍、足踏みといった現行の日本舞踊にはない身振りや足使いがある舞に、学生は一瞬たりとも目が離せない様子で熱心に見入っていました。さすらいの芸能者たちが地域に伝えていく過程で、様ざまな舞ぶりが加わっていった永い歳月に学生たちは思いを馳せ、人々の暮らしの中で神事と芸能が一体となって受け継がれてきたことや日本の文化や芸能の奥深さを学びました。

河田千代乃教授

舞の解説を行う河田教授

(注1)日本語日本文学科では、学生の多様な興味・関心に応じるために、2年次からはコース制(日本文学・古典芸能・日本語)を設けている。コース内には、入門・講読・文学史や日本語史・特講の科目が開講されている。コースの科目を中心に幅広い学習ができるよう他のコースの科目も履修できる。

(注2)かつて「くぐつ」(傀儡・傀儡子)と呼ばれ、定住せずに「祓え」の芸をすることで暮らしを立てる芸能集団がいた。この集団が守り伝えてきた神事芸能が「筑紫舞」である。

国際交流

交流年表
（姉妹提携等）

1983年　ハワイ大学（米国）
1993年　ケント大学（英国）
1997年　フライブルク大学（独国）
2000年　華南師範大学（中国）
2006年　ガジャマダ大学（インドネシア）
2006年　オークランド工科大学（ニュージーランド）
2006年　ピッツァー大学（米国）
2007年　チェンドラワシ大学（インドネシア）
2010年　ウダヤナ大学（インドネシア）
2010年　西安工程大学（中国）
2010年　カセサート大学（タイ）
2010年　高麗大学（韓国）
2011年　チェンマイ大学（タイ）
2011年　カリフォルニア州立ポリテクニック大学ポモナ校（米国）
2012年　アイルランガ大学（インドネシア）

健康福祉学部　国際健康福祉プログラム紹介

国際健康福祉プログラムは、健康を運動、栄養、社会福祉との関わりで捉え、世界の健康と医療の現状における問題を知り、国際感覚を身につけて世界で活躍できる人材を育成することを目的に、2013年度から開講されました。かねてから、インドネシア共和国とドイツ連邦共和国で行っていた教員と学生の共同調査研究や研修をさらに充実した内容で国際健康福祉プログラムを実施しています。

国際健康福祉プログラムⅠ（担当:梶原 苗美教授、松本 衣代助教、山下 俊介教授、野口 和美准教授）

女子高生の貧血健診

2013年8月23日から9日間、健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科3年生4名と4年生3名、社会福祉学科2年生2名の合計9名がインドネシア共和国バリ州（バリ島）において実施された国際健康福祉プログラムⅠに参加し、現地の医療・栄養の現状を学び、文化に触れインドネシア国立ウダヤナ大学医学部在学生との交流も深めました。

2010年に神戸女子大学とウダヤナ大学は、学術交流協定を結び、梶原 苗美教授が中心となって学生の交流を進めてきました。

学生たちは、急激な発展途上にあり栄養摂取の過剰と不足という健康問題の二極化に直面するインドネシア・バリ島の現状を学ぶため地域の保健所、病院、各福祉施設などでフィールドワークを行い理解を深めました。民家も訪れ、伝統を大切にして大家族で暮らしている現地の人々の生活を見て現状を知るとともに、インドネシアの人々のおだやかな人柄に触れ、学んでいる専門的知識を深めて人々の役に立ちたいという気持ちが強くなりました。また、国際的なコミュニケーション能力の向上を目指す意欲が沸きました。

妊婦体操教室（バリ第4保健所）

国際健康福祉プログラムⅡ（担当:梶原 苗美教授、松本 衣代助教、奥野 直教授、山下 俊介教授、狩野 恭教授）

2013年9月6日から16日の間に健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の4年生4名がドイツ連邦共和国バーデン=ヴュルテンベルク州のホーエン・フロイデンシュタット病院において実施された国際健康福祉プログラムⅡに参加し、海外における臨床栄養を学び、医療関係者や患者さんとの国際交流も行いました。

ドイツでの病院の臨床栄養研修は、EU諸国においても進行している超高齢化社会の生活習慣病の現状と治療方法を学ぶために7年前から梶原 苗美教授の主導で始まり、3年前から食事療法、運動療法を効果的に取り入れている同病院で研修を行っています。

研修では、栄養士が医師の診察に立ち会い治療に関わっている様子と治療にスポーツを取り入れて、栄養摂取のバランスをとることにより成果を上げている実態を見て、学生たちは医療制度の違いや栄養士の業務範囲の広さに関心をもちました。また、ドイツの生活様式や文化に触れ有意義な日々を過ごしました。

出発前から学生たちは、日本料理の食事会を現地で開く計画を立てていました。食材を持参し、70人分のちらし寿司やてんぷらなどを調理しました。大変な作業でしたが、「とてもおいしい」と患者さんと病院スタッフの方にお褒めの言葉を頂き、日本食を紹介し国際交流ができたことに、研修に参加した意義を改めて認識しました。

卒業後の進む道は様ざまですが、ドイツの病院における治療方法と栄養士の在り方を今後の進路に役立てるつもりです。

学生の作った日本食（かき揚げとちらしずし）

運動療法（アクアエクササイズ）

ホーエン・フロイデンシュタット病院の栄養士による栄養指導の説明

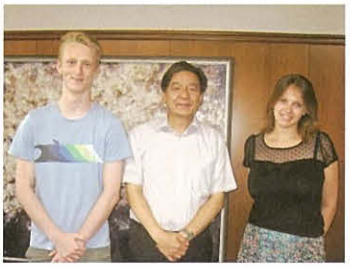
ハーブの効用の説明（ハーブ菜園にて）

オックスブリッジ英語サマースクール2013

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生が組織するOxbridge Summer Camps Abroad(OSCA)の学生2名を講師としたオックスブリッジ英語サマースクールが2013年7月23日(火)から8月2日(金)の間に須磨キャンパスで実施されました。今年はケンブリッジ大学からウィル・テイラー(Will Taylor)さんとオックスフォード大学からリサ・ケイブ(Lisa Cave)さんを迎え、神戸女子大学の学生25名が参加しました。

授業は全て英語で行われ、2名の講師は日常生活に根ざした同世代の学生が興味をもつ内容を取り入れた授業を行いました。学生はグループに分かれて、英語で本学での大学生活や日本の文化について講師に紹介する時間も設けました。

学生実行委員が企画したウェルカムバーベキューパーティー、京都観光などのイベントが取り入れられ、英語学習と異文化交流の充実したセミナーとなりました。



学長室に中島實学長を訪ねた
オックスブリッジ英語サマースクールの講師
(ウィル・テイラーさんとリサ・ケイブさん)

第20期ケント大学英語研修プログラム報告

修了式でケント大学の先生方とともに記念撮影

ケント大学は、本学園と1993年に姉妹校提携協定を結び、ハワイ大学に次ぐ国際交流の実績があります。今回の語学研修(2013年8月3日から3週間)は、20回目の実施となり、13名の学生が参加しました。この研修は、英語力の向上とイギリスの文化及び歴史の学習、そしてプレゼンテーション力の強化を目的としています。

課外授業では、事前学習を受けた後に、カンタベリー大聖堂、リーズ城、ロンドン・シェイクスピア・グローブ座の見学をして、知識を深めました。

プログラム後半には、ペアで決めたテーマについて、現地の人々に対するインタビューを生かした調査結果をまとめ、最終日は、英語によるプレゼンテーションを行いました。

観光で訪れたドーバー城

同研修に参加していた他の日本の大学と合同で、日本文化体験イベント 'Taste of Japan' を実施しました。本学の学生はダンスと盆踊りを披露し、各国からの留学生やケント大学教職員の皆様にも踊りに参加してもらいました。茶道・書道・折り紙などの体験ブースも設け、イベントは大盛況のうちに終わりました。

短期間の研修とはいえ、参加学生からは、「英語のコミュニケーション力が向上した」「異文化理解が深まった」といったコメントが多く聞かれ、研修の成果を実感していました。

ローターアクトクラブの学生がロータリークラブの新世代交換プログラムに参加

国際ロータリー2680地区主催の「新世代交換プログラム」に、神戸須磨ロータリークラブの推薦を受けて、神戸女子大学のローターアクトクラブのメンバーである文学部 英語英米文学科3年生の森本 翔子さんが派遣生に選ばれました。2013年8月23日から9月14日の約3週間にアメリカのオハイオ州にあるコロンバスの教育機関でインターンシップ体験をしました。

また、数あるオハイオの大学の中でも最大規模のオハイオ州立大学を訪問しました。ロータリークラブのご招待で例会にも参加したり、各国のロータリークラブから来た留学生たちとも交流をもちました。インターンシップ中は、ロータリークラブのお宅でホームステイを体験し、アメリカ生活を満喫しました。

英語の教員を目指している森本さんは、このプログラムに参加して、幅広い知識をもって児童・生徒にフレンドリーに接している教員の姿が特に印象に残り、今後の学習への意欲が高まりました。ホストファミリーの方々が家族団らんの時間を毎日とても大切にしている姿に心暖まる思いで滞在できたことに感謝し、この体験をローターアクトクラブの活動に役立てる決意をしました。

コロンバスロータリークラブの例会に参加し
バナーを渡す森本翔子さん

東日本大震災　被災地視察・学びのツアー

神戸女子大学家政学部 家政学科の上野 勝代教授の研究室では東日本大震災以降毎年、4年生のゼミ生が中心になって被災された方々に自分たちのできる支援はないかを考え活動を続けてきました。今年度は、家政学部から希望者を募り、夏休みに被災地を訪れ、震災について学ぶとともに、被災された方々の心に寄り添う『東日本大震災 被災地視察・学びのツアー』を実施しました。上野教授と同学科の来海（きまち） 素存（もとあり）准教授、西本 由紀子助手と36名の学生が参加しました。

平成25年8月25日（日）から29日（木）の間に、福島県、宮城県、岩手県の被災地を訪問し、当時の状況や復興状況について学び、「お茶っこ飲み会」で小物づくりなどを行いながら現地の方との交流を深めました。

東日本大震災の被災者の方との絆

上野教授は毎年、新学期が始まると入学直後の学生に「住生活文化論」の授業で阪神・淡路大震災の事例を基に“住居の安全”の重要性を講義しています。

東日本大震災が起きた平成23年度は、従来の内容に加えて、阪神・淡路大震災の仮設住宅入居者の方に好評であったかまぼこ板を使った「表札」を「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」運営ボランティアの長岡 照子氏の指導のもとに作りました。

この授業で『かまぼこ板表札』作製の準備や作業のサポートをした上野ゼミの学生は、自らも表札を作り、学外、学内の協力者を得て約200枚の『かまぼこ板表札』を仮設住宅にお住まいの方々に夏休みに直接届け、現地でも一緒に作る活動を行いました。さらにその後、他の仮設住宅へも約2千枚の表札を送りました。

平成24年度には、『かまぼこ板表札』を喜んでくださった陸前高田市小友町三日市（おともちょうみっかいち）の仮設住宅の方から要望のあった手作りの裁縫箱をプレゼントしました。

このような絆ができた仮設住宅の方々の心にさらに寄り添いたいという気持ちから今年度の『被災地視察・学びのツアー』は、計画されました。

被災地視察・学びのツアーの事前学習と準備

上野勝代教授による事前学習

準備をする学生と西本由紀子助手

平成25年5月17日（金）に宮城県出身の家政学部の瀬口 正晴教授が講師となり事前学習が開始されました。その後は、学外から「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」、福島県の「うつくしまNPOネットワーク」、「みちのく談話室」の方々を講師とする学習会と現地の活動に必要な小物作りの準備作業などで16回の集まりをもちました。

仮設住宅の集会所でお茶を飲みながら小物作りを一緒に行うというアイデアは、上野研究室の4年生のゼミ生7名が考えました。仮設住宅にお住まいの方々にアンケート調査をして、一緒に作製できる小物を選びました。また、希望のあったネイルアートも行うことを決めました。

参加者全員で、お土産にする小物と、現地の方と一緒に作りあげるため途中まで仕上げる小物に分けて作業に取り掛かりました。管理栄養士養成課程の学生は、クッキーをお土産にして現地では「ずんだもち」を作ることに決め準備を進めました。

お土産

学生の手作りクッキー

千代紙で作った爪楊枝入れ

ネイルアートを希望される方に用意したサンプル

現地で仕上げた小物

ティッシュケース

コースター、うちわ、アクリルたわし、マグネット、髪飾り

被災地視察・学びのツアーの交流会

参加者全員が大学のチャーターしたバスで東日本に向かい予定の行事を行いました。

東日本大震災被災地視察・学びのツアー 行程 平成25年8月25日(日)～8月29日(木)

日程	ルート	行程	詳細
1日目 8月25日(日)	神戸発 ▼ 福島	移動日 7時50分 集合:須磨水族園前 8時00分 出発:須磨水族園前 ＊朝食は済ませておくこと 北陸道経由⇒会津⇒宿泊先　19時頃 宿泊先到着	大学で荷物の運び込み(7:30 担当者のみ)⇒⇒須磨水族園(8:00)出発⇒宿泊先着(19:00頃)
2日目 8月26日(月)	福島 ▼ 仙台	ふくしまの視察・学びツアー 8時00分　宿泊先出発 ⇒郡山⇒仮設住宅視察＆被災者との交流会⇒飯館村⇒南相馬市(昼食)講話⇒ミニ交流会⇒沿岸部車窓視察 18時00分 宿泊先到着	宿泊先出発(8:00)⇒⇒郡山着(9:00)⇒⇒双葉町(視察・ミニ交流会)⇒⇒飯館村(12:00頃)【車中ゼミ】⇒⇒南相馬市小高地区　昼食「NPO法人ほっと悠」(障がい者福祉団体の運営する喫茶店　理事長講話(13:00頃)⇒ミニ交流会(NPO法人懸の森みどりファーム(被災地の酪農家)⇒⇒沿岸部車窓視察(16:00～17:00)⇒⇒仙台着(18:00)
3日目 8月27日(火)	仙台 ▼ 陸前高田	沿岸部の視察・学びツアー 7時30分　宿泊先出発 ⇒女川視察⇒石巻(大川小学校)⇒南三陸(防災庁舎)⇒気仙沼(昼食)⇒陸前高田(一本松) 19時00分 宿泊先到着	メルパルク仙台(7:30出発)⇒⇒女川港　説明(9:00)⇒⇒石巻市大川小学校　降車見学(10:40)⇒⇒南三陸防災対策庁舎 降車見学(11:50)⇒⇒南三陸町さんさん商店街　昼食(12:10)⇒⇒気仙沼　語り部による案内(14:00)⇒⇒気仙沼お魚市場　買い物並びに休憩⇒⇒陸前高田　語り部による説明⇒⇒宿泊先到着(19:00)
4日目 8月28日(水)	陸前高田 ▼ 陸前高田	陸前高田 仮設住宅訪問 8時00分　宿泊先出発 午前、午後　グループごとに仮設訪問 被災者との交流＆お茶会 20時00分 宿泊先到着	午前:仮設住宅6か所(グループごとに活動)⇒⇒サンビレッジ仮設住宅(昼食)⇒⇒午後:仮設住宅8か所(グループごとに活動)+1か所(お土産を渡す)⇒⇒住田町仮設見学⇒⇒宿泊先(20:00)
5日目 8月29日(木)	陸前高田 ▼ 神戸	移動日 6時30分　宿泊先出発 一関⇒北陸道経由⇒神戸 20時30分頃 水族館前到着	宿泊先出発⇒⇒須磨水族園前着(20:30頃)⇒⇒大学で荷物おろし(21:00頃)

気仙沼市中みなと町で津波に流された第18共徳丸の説明を受ける学生たち

仮設住宅での交流会の様子

ずんだもち作り

ずんだもち

報告会

二日間で約100名の学生と教職員が出席して学生の報告を傾聴しました。

開催日時
10月2日(水)12:20～12:50　概要説明、地域ごとの視察結果の報告
10月3日(木)12:20～12:50　交流会の報告、「ずんだもち」作りとクッキー製作の報告、全体の活動報告

一日目の報告会では、代表の学生たちが訪問した被災地ごとに、復興の進んでいない状況を撮影した写真を提示して現状を説明し、現地で学んだ復興への課題を伝えました。また、災害への備えと、地震が起きた時の適切な判断と行動が、いかに重要であるか例を挙げて報告しました。

二日目は、上野研究室の4年生のゼミ生が、陸前高田市の仮設住宅で、グループに分かれて行った「お茶っこ飲み会」について発表しました。

「お茶っこ飲み会」は、学生と会話を交わしながら小物を仕上げる企画が、若者と話す機会が少ない被災者の方々に、手作りのお土産とともに予想以上に喜ばれたことなどを報告しました。そして、仮設住宅の方々が自分たちを暖かく迎えてくださって、震災の体験や現在の生活などについて明るく語られる姿に、逆に励まされ、元気と勇気をいただいたと話しました。

学生たちは、『かまぼこ板表札』が今も大事に飾られていることを聞き、仮設住宅を訪れて本当に良かったと感激しました。

二日間の報告会は、被災地の現状を一人でも多くの人に伝えたいという学生たちの熱い思いがあふれていました。

報告会の出席者は、「どんな経験をしても人に優しくできることは素敵なことだと思いました」「生命の重さがわかりました」「家族の絆の大切さを感じました」という学生の言葉が印象に残りました。また、「東日本大震災のことを決して忘れない」「復興するために自分は何ができるのか考える」という感想をもちました。

観光ビジネス論の授業で地球一周客船を見学

平成25年10月14日(祝・月)に神戸女子短期大学総合生活学科の「観光ビジネス論」(中川 伸子教授)を履修している1年生41名が神戸港の中突堤(メリケンパーク)に寄港中の地球一周の客船「オーシャンドリーム号」の船内見学会に参加しました。

「観光ビジネス論」では、海外旅行が日常的なレジャーとして定着している現在、学生たちは、増加する海外への旅行者に必要な知識や常識を学び、世界の主要観光地や世界遺産の歴史や文化をグループで調べて発表しています。受講生は、出入国関係法令、CIQ(Customs, Immigration, Quarantine :税関、出入国管理、検疫)についても学び、OAG(Official Airline Guide:旅客定期 航空便時刻表)やトーマスクック(ヨーロッパ鉄道時刻表)を見て理解できるようになることも授業の目標になっています。

この日は、ゆったり時間を過ごせる船による海外旅行の楽しみ方や世界一周旅行の様ざまなプランについて、ピースボート(注)のスタッフの方から説明を受け船内をグループに分かれて見学しました。

参加した学生たちは、地球一周という視点での海外旅行の関心が生まれ、観光ビジネスを学習する意欲が高まりました。

(注)ピースボート(PEACE BOAT)とは、1983年に設立された非営利の民間組織(NGO)で国際交流団体。地球一周をはじめとする「国際交流の船旅」を企画している。

デッキで港の風景を撮影

船内のフリースペースの見学

デッキで記念撮影

ポーアイ4大学図書館連携　スタンプラリー

ポーアイ4大学の図書館では、4大学の学生が、お互いに他の連携大学の図書館を知る機会を設ける取組みとして、スタンプラリーを実施しています。

実施期間:平成25年9月19日(木)～平成26年3月31日(月)

参加希望の学生は、「ポーアイ4大学図書館連携利用者証」を作成し、スタンプラリーカードを入手し、四つの大学図書館で本を借り返却時にスタンプを押してもらいます。スタンプが四つ集まったら、希望する大学図書館のお楽しみグッズを受け取ることができます。

それぞれの大学の図書館には、各大学の特色に沿った蔵書があります。連携している大学を訪問し、それぞれの大学の雰囲気を知るための絶好の機会となっています。

スタンプラリーのパンフレット

ポーアイ4大学連携図書館
神戸学院大学ポーアイ図書館 神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学図書館 神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館 兵庫医療大学附属図書館

スタンプラリーカードを受け取る学生

2種類のスタンプラリーカード

山であそぼう！ ～in布引・市ヶ原～ 幼児教育学科の学生が子どもと一緒にエコ工作

平成25年10月6日(日)に「山であそぼう！～in布引・市ヶ原～」(主催：布引・市ヶ原を美しくする会・神戸市中央区役所)が開催され、神戸女子短期大学幼児教育学科9名の学生と宮内 真知子准教授(地域連携推進委員会委員長)、エコ工作助言担当の庄司 圭子教授が中央区との地域連携協力協定(注)の一環として参加しエコ工作を行いました。

このイベントは子どもたちに自然に親しみをもってもらうため、布引・市ヶ原周辺を散策しながら清掃活動を行い、身近にある自然に触れ合う機会を提供するために開催され、児童・生徒を含む市民170名の方が参加しました。

汗ばむような秋晴れのもと、参加者は、集合場所の生田川公園を出発し布引の滝の景観を楽しみながら市ヶ原を目指しました。市ヶ原で「布引みはらし登山会」の皆様に作っていただいた飯盒炊爨(はんごうすいさん)のご飯とカレーの昼食の後に、学生は希望した約30名の子どもたちと一緒にエコ工作の時間に「プカプカシップ」を作り、水に浮かべて遊びました。

幼児教育を学ぶ学生にとって、子どもたちに工作の方法や遊び方を分かり易く説明する工夫や野外活動での留意点を考え準備をすることは、「ボランティアの実践」という授業の一部として、実践教育の場にもなりました。また、不要になった食品トレーや簡単に手に入る材料でエコ工作を行い、子どもたちに環境にやさしい遊びがあることを伝えることもできました。

(注)平成20年1月に学校法人行吉学園と神戸市中央区は、人材育成と地域活性化で連携する協定を結んでいる。本学園の研究資源や知的財産及び教職員・学生等人的資源や知識をまちづくりに生かし貢献することとしている。

エコ工作「プカプカシップ」の作り方を説明

できあがった作品で遊ぶ子どもをサポート

庄司圭子教授(後列左)宮内真知子准教授(後列左から4人目)とともにエコ工作終了後に記念撮影

神戸女子短期大学 パンクラブ「KOBEパンのまち散歩」参加

平成25年11月2日(土)・3日(日)に行われたPI神女祭りにおいてパンクラブが「KOBEパンのまち散歩」(主催：神戸市中央区役所「KOBEパンのまち散歩」実行委員会)の関連イベントとして「PI神女祭り(学園祭)パンの特別企画展 オリジナルパン=夢見るパン」をテーマに自分たちで考えたパンを製造し、大好評のうちに800個を完売しました。

パンクラブは顧問の細見 和子准教授の指導のもと平成11年11月から同好会として活動を開始し、平成15年4月からパンクラブとして、日々、おいしいパンを作ることを目標に、材料や製造方法の研究を続けています。

今回のイベントで販売したパンは全部で9種類です。おいしさはもちろん「夢見るパン」というテーマに、パンに部員たちの夢をこめて焼き上げました。販売したパンは全て当日焼きで、出来立てのおいしさを味わっていただくために朝早くから部員たちは奮闘しました。前回の学園祭で非常に好評だったパンに加え、新たに「健康を考えたパン」を完成させるため、学生たちは連日試行錯誤を重ねました。日頃の活動でも、栄養学や調理科学の視点をもって、自分が食べたいと思うおいしいパンを作り続けています。パンクラブは、栄養士などの資格や将来食の分野を目指す学生には生きた学びの場にもなっています。

パンを製造中の学生たち

販売ブースの様子

2日に販売されたパン(W抹茶、ベーコン、シナモンロール、焼きカレーパン、トマトバジル、さつまロール)

まちづくりへの子どもの参画を推進する「地域安全マップ活動」プログラム開発

学生の司会進行で事前学習を実施

まち探検で得た情報をもとに「地域安全マップ」を作成

平成25年10月18日(金)に神戸市立和田岬小学校において神戸女子大学家政学部 家政学科の梶木 典子准教授と大学院生、ゼミ生合計13名が、5年生35名対象の「地域安全マップづくり教室」(主催:神戸市兵庫区まちづくり課)に参加協力しました。司会進行と事前学習を行い、「まち探検」に同行し「安全マップづくり」をサポートしました。

梶木研究室では、平成17年から「楽しく、簡単に!」をコンセプトとして「地域安全マップ活動プログラム」を開発してきました。このプログラムは、児童館や小学校を対象にしており、参加する子どもたちにとっては「主体的に」「楽しく」、指導する大人とっては「簡単に、負担なく」実践できるように作られています。梶木研究室ではこの「地域安全マップ活動」のプログラムの改良を重ね、日常的・継続的に実施可能なプログラムへと完成を目指し研究を続けています。

近年、子どもが巻き込まれる多様な犯罪や交通事故、大規模な地震や津波、集中豪雨による自然災害が多発し、安心・安全なまちづくりが急務とされるとともに、子どもたち自身が危険を回避する力を身につけることも重要になっています。その方法の一つが地域安全マップ活動であり、子どもたちはこの活動を通して、自分の生活している地域の特徴を知り、防災・減災の方法を学び、地域の人と顔見知りになることができます。

兵庫区にある和田岬小学校は、南海トラフを震源とする巨大地震が発生した場合、発災90分後には、校区全体に最大で4.2メートルの津波が到達すると想定されています。今回の安全マップ活動は、「地震・津波」に対する防災・減災学習に力点をおいて実施されました。

事前学習では、地震や津波のメカニズム、安全な避難の方法、避難場所などをクイズ形式で学習しました。その後、児童は保護者や地域の方、学生、区役所職員と一緒に8班に分かれ、「探険手帳」とデジタルカメラを持って、約90分間の「まち探検」を行いました。地震が起きた際に危険になると思われる建物、避難時に安全な道路、幅員が狭く救急車両が進入できない道路、倒壊しそうなブロック塀のある道路などを確認するとともに、地域の方へのインタビューも行いました。また「まち探検」の途中で、「地域の避難場所に行き、4.2メートル以上の高さの地点で班全員の写真を撮る」というミッションが出され、それをクリアすることで、児童全員が津波の到達しない高さの避難場所を確認できました。

午後からは午前中の「まち探検」の成果を取り入れた安全マップづくりの作業に取り掛かりました。班のメンバーで協力して完成した安全マップを提示して発表会を行い、クラス全員でその内容を共有しました。

参加した児童は、地域の避難場所・避難行動の方法をしっかりと確認し、防災・減災時の行動を自ら考え学ぶことができました。今後は、今回参加した5年生が全校児童の防災リーダーとなり、学校内だけではなく地域への防災意識を高めるジュニアリーダーとしての活躍が期待されます。

なお、梶木研究室では、「地域安全マップづくり活動」の事前と事後に参加者にアンケートを実施し学習効果を測定し、より効果のある「地域安全マップ活動プログラム」の開発に努めています。

まち探検:チェックポイントを探して歩く児童と学生

まち探検:住民の方にインタビューする児童

発表会:安全マップを提示して発表する児童

神戸女子大学 ⇄ 神戸市立須磨離宮公園

須磨離宮公園第26回「月見の宴」茶道部参加

平成25年9月23日(月・祝)神戸女子大学と「キャンパス・パーク連携」(注)を結んでいる神戸市立須磨離宮公園で、第26回「月見の宴」が開催され、茶道部の部員11名が参加し、庭園に設営された野点のコーナーで市民の皆様に茶の湯を楽しんでいただきました。

9月の下旬とはいえ、当日は日中の気温が真夏並みに上がり夕方まで蒸し暑さが残っていました。夕暮れとともに秋らしい風が吹きはじめ、ご来場の皆様に月見をしながら野点の風情を味わっていただけました。部員たちは、お月見にふさわしい名前のお菓子「名月」の説明を丁寧にして薄茶をお出ししました。

茶道部員は、小学生の頃からお稽古を始めた学生から、大学生になり入部して初めて茶道を学んだ学生まで、茶の湯に親しんできた年月は様ざまですが、「日本の伝統文化を学べる」「礼儀作法が身につく」「お茶席で心が癒される」といった理由でお点前の稽古を重ねています。

茶道部は、月見の宴のお茶席に加え、大学須磨キャンパスで開催される「お花見」、神戸市須磨区高倉台ふれあいのまちづくり協議会主催の「梅見の会」や「須磨大茶会」にも参加して地域の皆様に茶の湯を楽しんでいただいています。

(注)神戸女子大学と神戸市立須磨離宮公園は、平成18年12月に協定を結び、隣接する地理的条件を生かし、本学の教職員と学生が離宮公園を教育・研究の場として使用できるようになっている。

茶道部の学生と顧問の十一玲子准教授(前列左から2人目)

陽も落ちて一段とお月見の風情が出てきたお茶席

お茶菓子の説明をする学生

Information

学園からのお知らせ

○ポートアイランドキャンパス自転車運転講習会を開催

平成25年9月25日(水)に兵庫県警神戸水上警察署交通課の方を2名お招きして、ポートアイランドキャンパスの学生を対象に、初めての「自転車運転講習会」を開催し、35名の学生が参加しました。

ポートアイランドの一期地区に住む学生には、自転車通学を認めていますが、最近の自転車事故の増加に伴い、本学では、安全運転と事故防止を図ることを目的として、自転車通学規程も整備しました。

神戸水上警察署の方に正しい自転車利用のルールや違反をしたときの罰則及び罰金、過去の痛ましい交通事故の事例などについて、説明していただきました。また、自転車シミュレーターを教室に持ち込んで、モニターを見ながら学生や出席の教員が運転した結果を採点することも行いました。自転車による交通事故の件数が年々増加し、社会問題にもなっているので、警察も今後取り締まりを強めていくということでした。

○磐田市香りの博物館の企画展へ図書館所蔵の特別コレクションを出品協力

平成25年10月12日(土)～平成26年1月13日(月)に静岡県磐田市の磐田市香りの博物館で企画展「ターシャ・テューダーの世界展～楽しみは創り出せる～」が開催され、神戸女子短期大学図書館所蔵の特別コレクション「ターシャ・テューダーの世界」から、ターシャの直筆原画や原書などの貴重資料約160点を出品協力しました。

短大図書館では平成18年から収集を始め現在320点あまりの資料を所蔵しています。平成27年にはターシャの生誕100年を迎えます。時代を越え、ターシャが作品を通じて伝えている「喜びは創り出すもの」という精神を、コレクションを通じて学生に伝え感性を磨くための教材として、収集を行っています。

○日本教育カウンセリング学会 学会表彰について

神戸女子大学文学部の伊都 紀美子助手は、平成25年8月11日(日)に開催された日本教育カウンセリング学会第11回記念研究発表大会においてサイエンティスト・プラクティショナー賞を受賞しました。

伊都助手は、特別な支援を必要とする児童・生徒に造形教育を行うことで、どのような学習効果が表れるかについて研究を重ねてきました。同学会の研究発表大会に平成19年から参加し、継続的に研究結果を発表してきたことが評価されました。

○平成25年度(前期) 博士学位取得者

平成25年9月23日(月)に博士(食物栄養学)の学位が1名に授与されました。

<論文博士>

岩田 惠美子:(神戸女子大学大学院家政学研究科　食物栄養学専攻へ提出)　指導教員:堀田 久子教授

論文題目:「野菜・果物未利用部位から抽出した食物繊維の新規機能に関する研究」

行事日程

1月

1	水	元旦	
6	月		<大学・短大>後期授業再開
13	月	成人の日	
17	金		阪神・淡路大震災鎮魂の日
18	土		大学入試センター試験(19日まで)
21	火		一般入試前期(22日まで)
23	木		<大学>学友会後期総会
25	土		<短大>ブルーム展(30日まで)
27	月		<大学・短大>後期授業終了

2月

7	金		<短大>後期定期試験・補講期間終了
11	火	建国記念の日	
18	火		<短大>後期定期試験結果・追再試験発表
25	火		<短大>後期追再試験 (28日まで)

3月

3	月		<大学・短大>一般入試後期
17	月		<大学>学位記授与式・卒業祝賀会
18	火		<短大>第63回学位記授与式　卒業記念パーティー
21	金	春分の日	

4月

3	木		<短大>入学式
4	金		<大学>入学式
7	月		<大学・短大>前期授業開始
29	火	昭和の日	

表紙写真

ピース　Peace

「ピース」

2013年9月8日、日本中が喜びの歓喜で沸きました。オリンピック・パラリンピック競技大会の開催都市が東京に決まった日です。バラの世界にもオリンピックがあります。世界40カ国が加盟する世界バラ会連合が、3年に1度開く世界バラ会議です。1971年から始まった会議では、世界中で愛されている名花を『栄誉殿堂のバラ』として選び、現在では15品種が殿堂入りしています。栄えある第1号のバラが『ピース』です。フランスの名門育種一家のフランシス・メイアンが第二次世界大戦中の1939年に作出しました。最初、このバラはフランシスの母親の名前から『マダム・アントワーヌ・メイアン』と名づけられました。戦時中、メイアンがアメリカ領事に託したバラの小枝は、アメリカの著名な栽培業者に届けられました。1945年に太平洋バラ協会展に出展され、協会賞を受賞したこのバラは、新しい品種名「ピース」を授かりました。「平和」の名をもつバラは、サンフランシスコ平和条約調印など数々の国際舞台で平和の象徴として飾られ、世界に広まりました。須磨離宮公園では、『バラの歴史と文化園』と『殿堂のバラコーナー』に植栽しています。明るいクリーム色の花弁の先にピンク色の縁取りが入る巨大輪の花は名花の名に相応しく、気品あふれています。

神戸市立須磨離宮公園　園長　山村 治

編集後記

昨年は、日本中が喜びに沸いたニュースがいくつかありました。なかでも、ユネスコの無形文化遺産に「和食:日本人の伝統的な食文化」が登録されるというニュースは、私たちが普段食べている「和食」ということで、多くの人々が誇りに思われたのではないでしょうか。

一方では、食生活の洋風化が進み、おせち、恵方巻といった行事食も買うことが増えました。家庭で毎日、和食を作り食べることが、幻想になりつつあるというのも事実です。これを機会に和食文化伝承の機運が高まることが期待されています。

今回の特集で紹介した神戸女子大学の家政学部管理栄養士養成課程と家政学研究科食物栄養学専攻に加えて、健康福祉学部健康スポーツ栄養学科と神戸女子短期大学食物栄養学科でも「食」を学ぶ多くの学生がいます。そして、食育活動で「和食」を子どもたちに伝える活動をしている学生もいます。このニュースは、学生たちの勉学の大きな励みになったことでしょう。

今回も広報誌の作成に、学外、学内の関係者の皆様に多大なご協力をいただき、感謝と御礼を申しあげます。

今年の干支は午です。馬は人との付き合いが古く縁起の良い動物といわれています。皆様の心が弾む楽しい一年になることをお祈り申しあげます。　(M.O.)

神女広報 CROSSROADS vol.17 2014年2月発行

編集・発行　学校法人行吉学園　学園企画部　学園広報課
〒650-0046　神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL:078-303-4790　FAX:078-303-4889
ホームページアドレス　http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/
E-メールアドレス　gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp
印　　刷　交友印刷株式会社
※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。

学校法人行吉学園

神戸女子大学

神戸女子大学大学院

神戸女子短期大学

神戸女子大学教育センター

vol.17
2014 Winter
「自立心・対話力・創造性」活力あるコミュニケーションで結ぶ
神女広報
CROSSROADS